

第 277 回 小平市の親鸞幼像、齋藤素巖像、及び平櫛田中像

筆者：林 久治（記載：2024 年 6 月 11 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は「日本の銅像探偵団」 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 5 月 10 日に、台東区蓮華寺の日蓮幼像と、立教大学のウィリアムズ主教像とタッカー主教像を探索し、これらの探索記を [274 回の記事/f](#) に記載した。5 月 19 日には品川の品川寺と海雲寺で役行者像を探索し、5 月 24 日には中野の丸井本社で青井忠治像を探索した。これらの探索記を [275 回の記事/f](#) に記載した。

ネット記事を色々と探索すると、[1\) のサイト/](#) に収録されていない銅像がまだまだ沢山ある。私はそれらの内で、6 月 1 日に板橋区の坂本清像を探索した。また、[1\) のサイト/](#) に収録されている有名像の中で、私は 5 月 24 日に杉並区のマハトマ・ガンジー像とチャンドラ・ボース像を探索した。これら 3 像の探索記を、[前回の記事/f](#) に記載した。

私は、6 月 8 日に、小平市の親鸞幼像と齋藤素巖像を探索した。これらは、[1\) のサイト/](#) に収録されていない。当日、私は小平市役所にも行き、[1\) のサイト/](#) に収録されている平櫛田中像も探索した。本稿はこれら 3 像の探索記である。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）小平市法善寺の親鸞幼像

私は 6 月 8 日に、西武新宿線の花小金井駅から法善寺（東京都小平市花小金井 2-24-18）まで歩いた。その道順を次ページの図 1 上に示す。道順（本図の赤い矢印）は次の通りである。

- ①北口前の通りを北行する。
- ②円成院の前を通過し、東向きの通りにでる。
- ③その通りを右に曲がり、少し東行する。
- ④ファミリーマート前を左に曲がり、北行すると法善寺に到着。

以上、約 15 分の行程であった。法善寺の門と境内の写真を図 1 下に示す、そこには、1 基の立像があった。

（本文は、3 ページに続く。）



図1. 上：花小金井駅から法善寺までの道順、下：法善寺の入口。



図2. 左：親鸞聖人御幼少之像、右上：台座正面の題字、右下：本像土台のサイン。

図2左に、親鸞聖人御幼少之像を示す。図2右上に台座正面の題字を、図2右下に本像土台のサインを示す。「晴山」とは、長田晴山氏のことで、有名な仏師である。彼の略歴や主な作品は、[3\)のサイト/1](#)や[4\)のサイト/1](#)に記載されている。

本像台座背面には、本像の設置経緯が彫られている。しかし、植木が直ぐ傍にあり、光線の関係も悪かった。そのために彫文を撮影出来なかったので、彫文をノートに書き留めた。法善寺の由緒は、本寺のHP([5\)のサイト/1](#))には書かれていない。どうも、本寺は葬式仏教に特化しているようだ。以上の資料などにより、幼少之像の概要は次の通りである。

親鸞聖人御幼少之立像

設置場所：東京都小平市花小金井 2-24-18 法善寺

制作者：長田晴山

設置時期：2009年5月11日 親鸞聖人750回大遠忌法要記念

寄贈者：藤木美代子

設置経緯：親鸞聖人(1173-1263)の幼名は「松若磨」または「松若丸」。小平にある法善寺は、浄土真宗本願寺派(お西)のお寺です。本像制作者の長田晴山(1920-2010)は、兵庫

県姫路市生まれの仏師。幼年期、事故により右手人差し指第一関節から先を失くす。戦時中は海軍で、上官の暴力により片耳の鼓膜を損傷し聴力をなくす。戦後、木彫の師匠（芸術院会員・佐藤玄々）に内弟子に入り、師匠の身の回りの世話をする。彫塑を、京都芸術大学名誉教・山本恪二に師事。結婚後、医師の助手をしながら、家の離れアトリエで木彫をする。1960年、京都市にて日本美術研究所を創設。1981年、絵本山仁和寺より大仏師の称号授與される。仏像や銅像の作品が多数。

(3) 小平市「彫刻の小径」の齋藤素巖像



図3. 上：小平グリーンロード、本図は、[6\) のサイト/](#)より借用。下：彫刻の小径（小平駅側）、本図は、[7\) のサイト/](#)より借用。

小平市には、「**小平グリーンロード**」という遊歩道がある。図3上に、その地図を示す。[6\) のサイト/](#)によれば、この道は、武蔵野の面影が残る小平市内をぐるりと1周する、全長21kmもの緑道である。また、[7\) のサイト/](#)によれば、小平グリ

ーンロードのコース中、小平駅と花小金井駅間の沿道には、ブロンズ像 17 作品が展示されている。特に、この区間は「彫刻の小径」と名付けられている。図 3 下に、その小平駅側の地図を示す。

「彫刻の小径」に展示されている作品の作者は齋藤素巖（さいとう・そがん、1889-1974）。素巖は 1943 年から 1974 年に亡くなるまでのおよそ 31 年間、この小平市内にアトリエを構えて数多くの作品を創り出した。図 3 下には、この小径の小平駅側にある 9 作品の位置を示す。それらの作品名は次の通りである。

①：競技への招待、②：交通、③：少女立像、④：農業、⑤：ピエロ、⑥：自然科学者、⑦：老人、⑧：カバ、⑨：遺失物。

素巖の略歴は、[8\) のサイト/1](#)に記載されている。[9\) のサイト/1](#)によれば、上記の作品の中で「⑦：老人」は、素巖の自刻像である。そこで、私は本像を今回の探索対象とした次第である。



図 4.
上：「彫刻の小径」の入口、
下：競技への招待（図 3 下の作品①）

私は花小金井駅前の法善寺を探索した後、西武電車に乗って次の小平駅に行った。駅から「彫刻の小径」の入口（図4上）に行くと、多くの人々が散歩したり自転車で乗ったりして、緑道を楽しんでいた。この場所に、作品①の「競技への招待」が設置されていた（図4下）。



図5. 左：「あじさいまつり」の旗、「あじさい公園」の中。

入口から少し歩くと「あじさい公園」があり、色々なアジサイが満開で、「あじさいまつり」が開催されており、見物人が多かった。本公園の中に、3作品（図3下の②、③、④）が設置されていた。「あじさい公園」の少し先に、⑥の「自然科学者」と⑦の「老人」が並んで設置されていた。「老人」の周辺写真を図6に示す。



図6. 「老人」の周辺写真



図7.

左：「老人」の近接写真、
右：本像台座側面のプレート。

図7左に「老人」の近接写真を、図7右に本像台座側面のプレートを示す。齋藤素巖の略歴は、ウィキペディアや[8\)のサイト/1](#)等に記載されている。以上の資料などにより、齋藤素巖像の概要は次の通りである。

「老人」（齋藤素巖自彫像）

設置場所：東京都小平市 彫刻の小径（小平駅側）

制作者：齋藤素巖

制作時期：1964年

設置経緯：小平グリーンロードは、武蔵野の面影が残る小平市内をぐるりと1周する、全長21kmもの緑道。小平グリーンロードのコース中、小平駅と花小金井駅間の沿道には、ブロンズ像17作品が展示されている。特に、この区間は「彫刻の小径」と名付けられている。彫刻の小径に展示されている作品の作者は齋藤素巖（さいとう・そがん、1889-1974）。素巖（本名は知雄）は東京市牛込区生まれ、東京美術学校の西洋画科を卒業。1913年、英国へ渡り、ロイヤル・アカデミーで彫塑を学んで1916年に帰国。東京・本郷菊坂町に落ち着き、のちに田端文士村に転居。1943年から1974年に亡くなるまでのおよそ31年間、小平市内にアトリエを構えて数多くの作品を創り出した。本像の題名は「老人」であるが、素巖の自彫像である。

（4）小平市役所の平櫛田中像

私は「彫刻の小径」で齋藤素巖像を探索後、小平駅に戻り、隣の萩山駅で西武多摩湖線に乗換えて、次の青梅街道駅（図3上を参照）で降りた。青梅街道駅から小平市役所までは歩いて数分であった。次ページの図8上に、市役所の玄関の写真を示す。流石に「彫刻の小平市」だけあって、玄関前に立派な彫刻が設置されていた。本像は、内閣総理大臣賞を受けた「連弾」という作品で、制作者は矢崎虎夫である。ウィキペディアによれば、彼の略歴は次の通りである。

矢崎虎夫（1904-1988）は、長野県諏訪郡永明村（現・茅野市）生まれ。1923年 長野県立諏訪中学校卒業と同時に平櫛田中に入門。1931年、東京美術学校彫塑科卒業。1966年、日

府展・文部大臣賞「雷電像」。1979年、亜細亜現代美術展内閣総理大臣賞「連弾」。1982年、勲四等瑞宝章叙勲、茅野市名誉市民となる。1988年、東京都小平市の自宅で死去。

玄関に向かって左側に、武蔵野風の庭園があり、そこに1基の立像があった。その写真を図8下に示す。これが有名な「平櫛田中像」であろう。



図8. 上：小平市役所の玄関、下：玄関横の庭園に設置された立像。

次ページの図9上左に、平櫛田中の近接像を示す。図9上右に本像土台の制作者サインを、図9下に本像横の碑文を示す。碑文の内容は、本像概要の設置経緯欄に記載する。

平櫛田中の略歴はウィキペディアに、彼の紹介は [10\) のサイト/1](#) に、彼が小平に移り住んだ経緯は [11\) のサイト/1](#) に記載されている。本像制作者の浜田泰三氏の略歴は、[12\) のサイト www/1](#) に記載されている。

(本文は、10 ページに続く。)

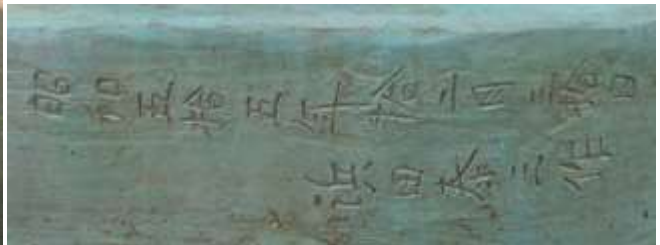


図9.

上左：平櫛田中の近接像

上右：本像土台の制作者サイン、

下：本像横の碑文。



以上の資料などにより、平櫛田中像の概要は次の通りである。

平櫛田中立像

設置場所：東京都小平市小川町2丁目1333 小平市役所玄関横の庭園

制作者：浜田泰三

制作時期：1980年12月30日

設置経緯：平櫛田中（1872-1979）は岡山県後月郡西江原村（現・井原市西江原町）の生まれ。1893年に、大阪の人形師・中谷省古に弟子入りして木彫を修業した。1944年、東京美術学校（現・東京藝術大学）の教授。本像横の碑文には以下の記載がある。

平櫛田中翁 平櫛田中（本名 倬太郎） 日本木彫界の巨匠 昭和37年文化勲章受章 昭和47年小平市名誉市民 小平市学園西町一丁目七番地五号（九十八叟院）にて数々の傑作を発表した 昭和54年百七歳で永眠 浜田泰三作

制作者の浜田泰三（1919-2000）は、広島県沼隈郡千年村敷名に生まれ。平櫛の弟子・秘書として長く傍にあり、平櫛の制作活動を支えてきました。1936年、平櫛田中に弟子入りする。1939年、召集し戦傷のため隻腕となり、彫刻家の道を諦め、帰郷して造船業に従事する。1954年、平櫛田中に勧められ、彫刻の制作を再開する。1969年、平櫛田中の懇願に応じて上京し、秘書役となる。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://seihou8.sakura.ne.jp/bussyo/busshi.html>
- 4) のサイト：<https://seihou8.sakura.ne.jp/seizan/index.html>
- 5) のサイト：<https://houzenji-kodaira.com/>
- 6) のサイト：<https://kodaira-tourism.com/greenroad/>
- 7) のサイト：<https://golf9243.exblog.jp/8432886/>
- 8) のサイト：<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/002/002398.html>
- 9) のサイト：<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/002/002428.html>
- 10) のサイト：<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/002/002347.html>
- 11) のサイト：<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/061/061393.html>
- 12) のサイト：<https://www.city.ibara.okayama.jp/site/denchi-museum/2833.html>